

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	③-23	実施計画番号		事業開始年度	平成26年度
事務事業名	B-1グランプリin十和田事業			事業終了年度	平成27年度
担当課名	観光推進課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	<p>全国62のまちおこし団体が一堂に会し、ご当地グルメを通じて各地域の魅力をPRする国内最大級のまちおこしイベントであり、今大会で10回目の開催となる。</p> <p>多くの市民ボランティアや各企業・団体と連携して大会を開催することにより、まちおこしに向けた市民の意識を高め、今後の活力ある地域づくり活動に対する機運の向上を図る一方、大会自体の全国的な知名度を利用して当市の魅力を全国に発信する又とない機会であり、大きな規模での誘客効果も期待される。</p>				
事務事業の目的	<p>市民のまちおこし活動、地域づくり活動に対する意識の向上。</p> <p>開催地である当市の魅力を全国に発信することによる地域ブランドPR、観光誘客促進および地域経済活性化。</p>				
実施状況	<p>10/3(土)・4(日)に開催。2日間で延べ33万4000人の来場者が訪れた。また大会運営においては5,500人を超えるボランティアスタッフが参加し、特に子供達によるおもてなしは各方面から高い評価を得た。大会開催に伴う県内への経済波及効果は約28億3千万円と推計された。</p>				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)			
	活動日数(日)		198	
	人件費(千円)	0	25,992	
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)		171	
臨時職員	人件費(千円)	0	5,421	

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	0	135,486	

【指標】

活動指標	活動指標名①	大会PR事業(ポスター・チラシ・パンフレット・HP・イベント消耗品等)			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		円		29,529	
	活動指標名②	ボランティア育成事業(講演会・講習会・説明会(市内のみ))			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		回		14	
成果指標	成果指標名①	来場者数			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		人	目標値	300,000	
			実績値	334,000	
			達成度(%)	111%	
	成果指標名②	ボランティア参加人数(2日間延べ数)			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		人	目標値	4,000	
			実績値	5,554	
			達成度(%)	139%	

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	平成26年	点数	合計	検証の理由
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	成27年		1	存在意義の見直しの余地 3 / 4 妥当か否かは評価が分かれるところであろうが、開催にあたっては行政・民間・ボランティア団体が連携して行われるのが慣例となっており、その主体はイベントの規模の影響か、ほぼ行政が担っているのが実情である。
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	B	1		
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	4	コスト削減の余地 2 / 6 本州最北端という地理的要因から、資材調達や物流の点で他開催地と比較してもコストがかからざるを得ないという課題はあるものの、もう少し早い段階から具体的な準備を進めることができればコストの削減が可能であったかもしれない。
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1		
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	15 / 20	改善の余地 5 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **15** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **5** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

大会を成功裏に終え、来場者から十和田市民のおもてなしが高く評価された経験が、今後のまちづくり活動に関わる人材の「人づくり」「人おこし」のきっかけとなり、市民主体の積極的なまちづくり活動が一層高まっていくこと、また、そのような活動を通して地元に対する誇りと愛着を一人でも多くの十和田市民が感じることができるよう、期待する。
経済的な側面においても、今回のイベントを通して全国にアピールすることができた十和田市の魅力を、観光誘客をはじめとする多くの分野において友好的に波及させていくことが期待される。